

平成29年度

学校運営方針



京都市立朱雀第七小学校

子どもが光り輝く学校をめざして

京都市立朱雀第七小学校

1. 学校教育目標

『自分のよさを磨き、一人一人が光り輝く子どもの育成』

～自己を見つめ、なりたい自分の実現をめざして～

★次期学習指導要領より

- 人間が学ぶことの本質的な意義や強みを改めてとらえ直し、一人一人の学びを後押しできるようにする。
- 「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、「社会に開かれた教育課程」を実現できるようにする。

- ①生きて働く「知識・技能」の習得
- ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養

★京都市の「京都市29年度 学校教育の重点」より

子どもの「主体性」と「社会性」の育成を目指し、

「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を 学校・幼稚園全体の教育活動の中で高める

「自ら学ぶ力」…学ぶことに興味を持ち、自己の進路や将来の生き方と関連付けながら、目標実現への見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自己の学習活動を振り返って改善することのできる力

「自ら律する力」…地域・社会との関わりの中で、他者への思いやりや寛容、人と人の絆の大切さを実感しながら、自らの生活や人生、地域・社会をよりよくするため、時と場に応じた正しい判断をすることのできる力

★よんきゅう絆プロジェクトより

小中一貫教育目標

未来を拓き しなやかに生きる子どもの育成

めざす子ども像

- 1 人を大切にする
- 2 あいさつをする
- 3 進んで学習する
- 4 自分の考えを表現する
- 5 からだを大切にする
- 6 地域を愛する

2. めざす子ども像

- * 自ら進んで学習する子 (確かな学力)
- * 自分も友だちも大切にする子 (豊かな心)
- * 身も心も健康な子 (健やかな体)

3. めざす子ども像の実現に向けて

①自ら進んで学習する子 (確かな学力)

子ども一人一人が主体的に学ぶ授業づくりをめざす。そのために、教員の指導力の向上を図ったうえで、以下の取組を通して主体的に学習に向かう子どもの育成を推進する。

○普通授業の充実 (1時間の授業を大切にする)

主体的な学びを実現できるように授業改善に努める。

- ・子どもにとっての目的の明確化
- ・学習過程の共有化 (児童と教員) …単元の流れ, 1時間の流れ
- ・振り返り (自己評価) の充実

そのために、研究発表会・校内授業研究会・自主的授業研究活動・管理職による授業指導・若手教員の勉強会・学年単位での授業等、教員一人一人が熱心な教材研究を行うことができるような機会を多くもつようにする。

○朝の時間や帯タイムを活用した学習 (朝読書・スキルタイムを活かした取組)

○課外学習の活用 (放課後の徹底した補充指導など)

○家庭学習の充実 (宿題や予定表の宿題チェック欄・週末プリント)

○長期休業中の活用 (補充学習の充実)

○支援を要する子どもへの指導 (個別の指導計画の活用)

○小中一貫の取組 (行事交流や連携した授業の充実)

②自分も友だちも大切にする子 (豊かな心)

豊かな感性が息づく学校 (学級) づくりを推進し、全ての教育活動を通じて人権文化が満ち溢れた学校 (学級) を創出することにより、自他を大切にする気持ちの育成をめざす。

○普通授業の充実

教育を受けること自体が重要な人権であるとの認識に立って、子どもの個性や特性を尊重し、自己実現を可能とする力を身に付ける場を保障する。

○道徳教育及び人権教育の充実

しなやかな道徳教育と人権教育との融合を図る。

○特別活動の推進

よりよい集団形成を推進しいじめのない学級・学年・学校を創出する。また、子どもの主体的な活動を生み出す工夫を行い、自ら思考・判断し、行動につなげることにより、一人一人が自分の行動に責任がもてるようにする。

○実態把握の徹底

各種研修会にて配慮が必要な子どもの把握を徹底する。

③身も心も健康な子（健やかな体）

一人一人の子どもが自分のもつよさを発見し、かけがえのない自分に気づく中で、自己肯定感をもち、自分の行動に自信がもてる子どもを育成することを推進する。

○体と心の安定と技能の習得

基本的な生活習慣の形成と子どもの生活サイクルの把握を通して、生活実態を知る。その上で、子ども自らが個の課題に気づき、自らよりよくしていこうとする意識を高め、行動できるように取り組む。

○健康教育や食教育の充実

養護教諭や栄養教諭との連携を図り、学活や保健の学習の時間を活用し取り組む。

○安全教育の充実

自他の命を大切にする子どもの育成をめざし、身の回りの安全について自ら考え、行動につなげるようにする。

4. めざす教職員像

*子どもに対して身近な教育環境としての教職員

教職員は常に子どもにとって身近な教育環境であるという意識をもち、丁寧な言語環境となることを心掛け、笑顔あふれる教職員・子どもの見本となる言動・地域や保護者への丁寧な対応に努めることが大切である。

5. 教育環境向上のための共通理念

○個を生かす教育、個に応じた教育、子ども主体の学習等を実践し、個のもてる資質・能力を引き出し、生きる力を育む。

○朱七の子ども一人一人の人格の確立をめざし、教職員自らが互いの人権を尊重することを第一とし、さらなる人権教育を推進する。

○全教職員が、すべての子どもへの共感的理解を図り、「どの子にとっても楽しい生活の場としての朱七」「子どもを大切にし、子どもが主人公の特色ある朱七」づくりに努める。

○保護者・地域の方々と連携し、豊かな教育条件・学習環境づくりに努める。

6. めざす学校像

*子どもたちが安心して楽しく学び合える学校

*教職員が一丸となって粘り強く取り組む学校

*保護者が信頼する学校

*地域が応援したくなる学校

7. 学校づくり全体構想図(P・D・C・A サイクルを活かして)

次期学習指導要領

- ①「知識・技能」の習得
- ②「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③「学びに向かう力・人間性」の涵養

京都市の教育の重点

子どもの「主体性」と「社会性」の育成を
目指し、「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を
学校・幼稚園全体の教育活動の中で高める

学校教育目標 『自分のよさを磨き、一人一人が光り輝く子どもの育成』
～自己を見つめ、なりたい自分の実現をめざして～

Plan

目指す子ども像

- * 自ら進んで学習する子
- * 自分も友だちも大切にする子
- * 身も心も健康な子

児童の実態

(学校全体・学年・学級)
地域・家庭の実態

Do

- ★子どもが主体的に学ぶ授業づくり
- ・子どもにとっての目的の明確化
 - ・学習過程の共有化
 - ・振り返り（自己評価）の充実

各教科
特別の教科道徳
外国語活動
総合的な学習の時間
情報教育
図書館教育

確かな学力

豊かな心

健やかな体

★自他を大切にする気持ちの育成

- ・普通授業の充実
- ・道徳教育の充実
- ・人権教育の充実
- ・特別活動の推進

★一人一人が自分を見つめる取組の充実

- ・健康教育・性教育
- ・安全教育
- ・喫煙防止教育や薬物乱用防止教育 等
- ・子どもの生活実態調査と分析

Action

学校だより・ホームページでの発信

学習評価

学校評価

Check

各種学力テスト

(全国学力・学習状況調査・研究会テスト・
プレジョイントプログラム・ジョイントプ
ログラム)

各種アンケート・体力テスト 等

児童・保護者・教員の意識調査
外部評価(地域・学校運営協議会)

家庭・地域との連携

保幼小中連携

よんきゅう絆プロジェクト